

京都の自然を活かした自然体験と 環境教育の推進(2)

宮 野 純 次

はじめに

京都の自然を活かした自然体験と環境教育について、本学の「京女の森」並びに「京女 鳥部の森」での継続的な活動に加えて、地域で実践している団体と協力して活動することにより、五感を使った自然体験型環境教育を実施し推進している。その際、子どもたちの感性を自然体験活動・環境教育活動で広げているネイチャーゲームの実践活動についても、地域の会や全国的な研究大会、研修講座等に参加することにより、継続的に調査・研究している。

1. 本学の「京女の森」並びに「京女 鳥部の森」における活動

(1) 「京女の森」における継続的な調査・研究

京都市左京区の大原尾越町に位置する「京女の森」は、標高が650～800m、広さは約24ヘクタールの水源涵養保安林である。奥山に近い里山であるため、「京女の森」ではダイナミックな自然体験が可能である。しかし、2018年度は集中豪雨や台風の影響で「京女の森」への道路が通行止めとなり、活動する機会に恵まれなかった。

道路が復旧した2019年度は、まず5月に学生5名を引率して、自然体験活動を実践した。活動日は好天に恵まれたが、「京女の森」までの移動途中や「京女の森」においても、暴風が吹き荒れた前年の台風の影響は残っており、幹が折れたり、根こそぎ倒れたりしている木々が至る所で見られた。

現地に到着後、自然体験の最初に、耳をすまして、周りから聞こえてくる音をじっくりと聞くネイチャーゲーム「音いくつ」を実施した（写真1参照）。

その後に、におい、色、形、触った感じ、音など様々な方法で身近にある自然を探していく「フィールドビンゴ」もしながら、二ノ谷尾根コースを中心に自然体験をした。この二ノ谷尾根コースは、尾根に沿って山道を歩くと、尾根に境にして一方に天然林、反対側にはスギやヒノキの人工林があり、天然林と人工林との比較観察が容易にできる。尾根道の足元のふかふかした感触も楽しみながら、スギ、ヒノキ、マツ、モミなどの木肌の違いを触って確かめ、それぞれの葉についても形状やにおいなどによりその違いを実感した（写真2参照）。今回は森林インストラクターの方にも同行してもらい、森の働きや生物の営みについて一緒に歩きながら具体的に説明していただいた。

11月にも学生11名を引率して、京女の森で自然体験活動を実践した。秋晴れの好天に恵まれ、自然体験の最初に、いつものようにまずネイチャーゲーム「音いくつ」からスタートした。耳をすませ、周りから聞こえてくる音をじっくりと聞くことにより感覚が研ぎ澄まされてくる。その後、紅葉が始まっている二ノ谷尾根コースにおいて、触ったりにおいをかいだりなど、五感を働かせる「フィールドビンゴ」もしながら自然散策した（写真3参照）。尾根の途中には、樹齢数百年と推定されていたアカマツの大きな木が立ち枯れの状態で残っている。5月と同様に、参加学生とともに、この枯れたアカマツの根元の一部をのこぎりで切り取ると、枯れてからすでに何年も経過しているにもかかわらず、とてもいい香りがした（写真4参照）。森の働きや生物の営みについて現地で具体的に体験した後に、振り返りも行った。

（2）「京女 鳥部の森」における継続的な調査・研究

林野庁近畿中国森林管理局との「遊々の森」協定の締結により、環境教育を推進するフィールドとして阿弥陀ヶ峯国有林（13ヘクタール）を「京女 鳥部の森」と名付けて活用している。「京女鳥部の森」は、豊国神社境内の常緑の森とつながり、四季の変化が楽しめる。大学に隣接しているため、理科教育ゼミの授業、環境教育研究の授業、宗教部ゼミナール「自然体験と環境教育の会」

での活動において、自然観察とともにネイチャーゲームも実践しながら活用している(写真5、写真6参照)。2018年度、2019年度ともに、春から初夏、秋、初冬にかけて、季節ごとに自然散策し、観察する機会を持った。

2. 京都かも川ネイチャーゲームの会への参加・調査

本学がある京都市内をフィールドにしている「京都かも川ネイチャーゲームの会」に継続的に学生と一緒に参加し、活動している。2018年度は、「初夏のつどい」「夏のつどい」「初冬のつどい」に参加し、里山の自然体験とネイチャーゲームを実践した。

5月の「初夏のつどい」は、「里山の自然体験とネイチャーゲーム 野草を味わおう!」がテーマであった。好天に恵まれ、参加者15名とともに集合場所である岩倉村松バス停付近からネイチャーゲーム「フィールドビンゴ」(見る・聞く、さわる、かぐなど様々な感覚を使って自然を楽しむ)をしながら、活動場所となる岩倉農場へと向かった。岩倉農場へ到着後に行ったネイチャーゲーム「同じものを見つけよう」(リーダーが見せた自然物と同じものを一定の時間内に探す。集中して対象物を観察するようになる)では、タンポポ、ヨモギ、ノビル、カキドオシ、ウマノアシガタを対象物として設定し、活動した(写真7参照)。その後、有毒植物のウマノアシガタ以外を、〈野草を食べよう〉の食材として参加者とともに新たに採集した。調理前に手洗いを徹底し、参加者にもお弁当作りのための準備作業も分担してもらった。採集した野草を揚げた天ぷらを各自で盛り付けて自分のお弁当を作り、皆で一緒に味わった。午後に行ったネイチャーゲーム「つながりの一步」(リーダーが見せたカードと生態的なつながりを相談して“あるね”と思ったら一步前へ進む)では、いろいろな生き物や自然のつながりを参加者とともに考えることができた。また、花の苗(野菜苗も含む)を植える花壇づくりも実施した。最後に、カキドオシ茶、クサイチゴで作ったジャム入りヨーグルトも味わうとともに、活動の振り返りも行った。

7月の「夏のつどい」は、「里山の自然体験とネイチャーゲーム 畑のめぐみに感謝！」がテーマであった。参加者16名とともにネイチャーゲームの7月の里山「フィールドビンゴ」をしながら、岩倉農場へと向かった。これまで主な活動場所にしてきた岩倉農場も8月で閉鎖されることが決まっていた。そのため、例年行っていた田植えや稲刈りの体験は実施できないながらも、粃から玄米、白米へとお米が精米される過程を子どもたちと一緒に、触って実感しながら観察した。次に、野菜（タマネギ、ジャガイモ、ニンジン、シソ）の収穫体験の後、参加者である高学年の子どもには、野菜を切るなどの調理分担を、幼児には野菜を洗ったり皮をむいたりなどを体験してもらった。収穫した野菜で一緒にカレーライスを作った。昼食後には、ネイチャーゲーム「葉っぱちゃんあつまれ！」で、1人1枚ずつ拾った葉っぱを比べて、同じものを集めたり、長さや幅の順に並べたり、葉っぱの中の穴の大きさで並べたり、1枚の葉っぱで仲間集めや並べ替えの活動をして、違いや特徴に気づき楽しむことができた（写真8参照）。5月の「初夏のつどい」の際に、花の苗（野菜苗も含む）を植えていたが、1か月半の間に大きく成長し、花や野菜を収穫することができた。炎天下での活動が多かったが、収穫したシソで作ったシソジュースで水分を補給しながら、活動の振り返りも行った。

12月の「初冬のつどい」は、「里山ハイキングとネイチャーゲーム 蹴上駅から初冬の東山を歩こう！」がテーマであった。蹴上駅から南禅寺（南禅寺から山道へ入り）、七福思案処を通過して、日向大神宮、蹴上インクラインへと下ってくる、初冬の東山を歩くコースである。好天に恵まれ、幼稚園児・小学生とその保護者、スタッフ（学生を含む、以下同じ）の計17名で里山ハイキングがスタートした。紅葉狩りの雑踏を離れて南禅寺から山道に入った辺りで、アイスブレイクにネイチャーゲーム「ジャンケン落ち葉集め」を行った。ジャンケンをし、勝ったら1枚ずつ葉っぱを拾い、葉っぱの違いに気づいていく楽しい活動である（写真9参照）。次に、動物の絵のフリップも使って、子どもたちにはグループ内での歩く順番など、山歩きのルールも説明した。登りのコース

をしばらく歩いた後の休憩時には、各自で行動食を小袋に詰めた。子どもたちにも自分の責任で行動食を携帯してもらった。数種類ものお菓子は、皆の元気の源になった。9月の台風21号の影響で、幹が折れたり根こそぎ倒れたりしている木々が至る所で見られたが、山道をふさいでいた木々も森林ボランティア等の方々により、チェーンソー等で切断され、歩けるように修復されていた。小休憩の七福思案処では倒れた木々の年輪の数を観察することで、日当たり・土壌等の影響で樹齢や生長の度合いが大きく異なることなど子どもたちと一緒に実感した。

自然散策の途中、足を止め、耳をすませて、周りから聞こえてくる音をじっくりと聞くネイチャーゲーム「音いくつ」も実践した。目を閉じて音を集中的に聞くという時間をとると、だんだんと感覚がとぎすまされてきて、小さな音まで聞こえるようになってくる。また、同じ風の音でも遠くでうなっている音と真上で葉をゆらす音の違いなどにも気づかされる。1分間だけ感覚を集中していろいろな音を聞くと、心も静かになってくる。自然の中には、様々な音がある。まわりから聞こえてくる音に注意して森の中を歩いてみると、普段とは違った森の姿を感じることができた。最後に、日向大神宮鳥居前でも音いくつを実践した。立っている時、座った時、寝転んだ時、それぞれ聞こえてくる音が違うことを参加者とともに再発見した。

2019年度は、「夏のつどい」「秋のつどい」「初冬のつどい」に参加し、身近なフィールドで自然を体感しながらネイチャーゲームを実践した。

7月の「夏のつどい」は、「京都御苑 母と子の森でネイチャーゲーム 夏の朝、森を感じよう！」がテーマであった。雨模様の日が続いていたが、当日は曇り空の下、京都御苑内の「母と子の森」で、参加者とともにスタッフも含め17名でネイチャーゲームを実践した。アイスブレイクは、「この指とまれ」のジャンケンバージョンを実施した。参加者の気持ちが高まった後に、耳を澄ませて、聞こえた音を線や記号でカードに記入するネイチャーゲーム「サウンドマップ」を行い、出来たマップをみんなで共有した。小休止の後、2、3名

のチームになり、木の特徴を把握し、協力して木の形を表現するネイチャーゲーム「木のシルエット」に挑戦した（写真10参照）。参加者はそれぞれどの木が表現されているかを考え、木にも個性があることを学んだ。その後、また数名のチームに分かれ、前の人の肩に手を置き、一列になり、バンダナで目隠しをし、リーダーが森を案内するネイチャーゲーム「目かくしイモ虫」も行った。視覚を遮ることで、足の裏の感覚や聴覚などが鋭くなりまわりの自然への感じ方が一変してくる。感じたことをお互いに共有した後は、樹冠へと目を移し、森林の中でどのような種が混生しているか、日光を遮らないように樹木の葉がどのように伸びているかなど、ゆっくりと観察する時間も取った。

10月の「秋のつどい」は、「京都御苑 母と子の森でネイチャーゲーム 秋の森を感じよう！」がテーマであった。参加者とともにスタッフも含め13名でネイチャーゲーム「ノーズ」に始まり、京都御苑にいる生き物をテーマにした「動物交差点」、松ぼっくりやドングリの殻斗を題材にした「同じものを見つけよう」を体験した後に、南の森のエリアへ移動しながら、落ちているドングリを集めた。その後2チームに分かれ、指定された木の周りにドングリを隠し、互いに隠したドングリを探す「ごちそうはどこだ」を実施した。動物と木の実の関係について実感しながら学ぶ機会となった。また、ドングリから出てきた「幼虫」が気に入って、夢中になった小1の女の子2人に促され、大人たちもじっくりと手に取って観察した。最後に、自然の一瞬の美しさやおもしろさをとらえる「カメラゲーム」も行った（写真11参照）。

12月の「初冬のつどい」は、「里山ハイキングとネイチャーゲーム 御陵駅から初冬の東山を歩こう！」がテーマであった。好天の下、東山トレイルコース（御陵駅前～天智天皇陵～山科疎水～七福思案処～南禅寺）を散策しながら参加者とともにスタッフも含め14名でネイチャーゲームを実践した。アイスブレイクとして、1人1枚、「生き物ビッグパズル」のピースをもち、仲間を探しながら共同で生き物パズルを完成させる活動を行った。参加者の気持ちが高まった後に、五感を使って初冬の自然を探るネイチャーゲーム「フィールドビ

ンゴ」をしながら疎水北側を散策した。また、耳をすませて、周りから聞こえてくる音をじっくりと聞く「音いくつ」も自然度の異なる2か所で実施し、その違いを実感した。最後の南禅寺付近では、落ち葉を拾って窓の大きさに合わせてテープで貼り、光にかざして葉の色や模様を楽しむ「落ち葉の窓」も行った(写真12参照)。感じたことをお互いに共有する時間も持った。ネイチャーゲームの実践者や参加者と交流し、知見を深めるとともに、情報交換を行うことができた。

3. 全国ネイチャーゲーム研究大会や研修講座等への参加・調査

子どもたちの感性を自然体験活動・環境教育活動で広げているネイチャーゲームの実践活動について調査・研究を深めるために、継続的に全国ネイチャーゲーム研究大会や研修講座等に参加している。

(1) 全国ネイチャーゲーム研究大会への参加・調査

①全国ネイチャーゲーム研究大会 in 福岡 2018

2018年度は、「第28回全国ネイチャーゲーム研究大会 in 福岡 2018」に2泊3日〈2018年6月1日(金)～6月3日(日)〉で参加した。「人・街・自然を体感、よみがえる！ グリーンシティ北九州」を大会テーマにした福岡大会の初日は、開会式の後、北九州市環境ミュージアム館長の中藺哲氏により、基調講演「北九州市の環境政策の経緯」が行われた。明治時代から日本の近代化の一翼を担ってきた北九州は、第二次世界大戦後に国土の復興を牽引する役割を果たしたが、公害問題が深刻化し、日本全体の経済発展の中で相対的な地位は低下していった。しかし、「あおぞらが欲しい」に始まる公害との戦いから、様々な課題に積極的に挑戦し克服してきた過程があり、産官学の連携に市民が積極的に参画してきたことの成果が生きている、という指摘であった。過去の客観的な事実としての歴史を踏まえ、北九州は今再び、環境未来都市として持続可能な循環型社会のあるべき姿を指し示す大きな役割を果たそうとしている。

基調講演の後、2日目に実施されるワークショップの説明会がコースごとに行われた。ワークショップの内容は、次の6コースである。A「幼稚園で子どもたちとシェアリングネイチャー」、B「平尾台カルスト台地で五感を使ってエキサイティングに遊ぼう」、C「ミュージアムで環境を学び、皿倉山で大パノラマを体感!」、D「よみがえった動物園発、つなげたい地球の生命を考える」、E「鉄の都を支えた人・街・海を巡る歴史の旅」、F「北九州の『水』を巡る、貯水池・海辺で遊んで学ぶ」。

2日目は朝食前にフリープログラム(カモフラージュ)を体験した後、Eコースに参加した。かつて公害によって「死の海」と言われた洞海湾を船上からながめ、海が蘇ったことを体感した(写真13参照)。下船後は、明治、大正、昭和を通じて石炭積み出し港として栄えた若松南海岸町並みを散策し、その文化の足跡を巡った。高塔山へものぼり洞海湾を一望した後、ヘドロなどを埋め立ててできた北九州エコタンクの中の響灘ビオトープで野鳥観察をした。産廃物埋立地だったところが30年たち、日本最大級のビオトープとなって多くの希少種も見られるような環境へと変化していた(写真14参照)。2日目の夜は、前回大会から導入された新しい企画「シェアリングネイチャーの可能性を探る」というテーマで、いくつかの分科会形式の「座・アラカルト」も行われた。「座」のテーマは、A「あなたにもできる! 環境教育・ESD～なーんにも知らなくてもみんなでSDGsを考えるワークショップができる～」、B「レベルアップの仕組みを考える(インストラクター限定)」、C「地域組織の安全対策、意識の向上について」、D「キッズネイチャーゲーム～小さな子どもたちと楽しむネイチャーゲームの広がりをみんなで考えよう～」、E「シェアリングネイチャー・エクササイズを語ろう」、F「こんなグッズが欲しい! アイデア募集」、G「シェアリングネイチャーの活動とはどんな活動か…他団体や個人のプログラムの出し合い」であった。

大会全体を通して、持続可能な循環型社会のあるべき姿を様々な体験しながら参加者とともに考え深める機会となった。

②全国ネイチャーゲーム研究大会 in 滋賀 2019

2019年度は、「第29回 全国ネイチャーゲーム研究大会 in 滋賀 2019」に、2泊3日〈2019年5月31日(金)～6月2日(日)〉で参加した。「感じよう！ 母なるびわ湖の自然と息づく人々の暮らし」を大会テーマにした滋賀大会の初日は、開会式の後、近畿大学農学部元教授の山根猛氏により、大会テーマについての基調講演が行われた。太古から琵琶湖は、周辺に暮らす人々にとって欠かせない動物性たんぱく質食料としての魚介類の供給源であった。縄文時代の遺物や中世以降の絵画・文字記録などをもとに、網漁やエリなどの漁労技術と主要な魚種の変遷についても紹介された。「水産業」を主題にしながら、水環境、環境問題、エネルギー関係等、幅広い分野について考える機会となった。

基調講演の後、2日目に実施されるワークショップの説明会がコースごとに行われた。ワークショップの内容は、次の6コースである。A「海なし滋賀県の離島？ 沖島の自然とくらしにふれてみよう！」、B「手漕ぎの舟で水郷めぐり！ 琵琶湖の葦（ヨシ）を身近に感じよう！！」、C「鍛冶体験で、古（いにしえ）の鉄打つ音がよみがえる」、D「滋賀の自然の歴史を肌で感じる！ 移動するびわ湖の謎と設楽焼き体験」、E「見る、感じる、琵琶湖博物館と釣り体験」、F「びわ湖のほとりでエクササイズ」。

2日目は、水郷をめぐりながら、五感を使って湖の生態系や人とのかわりを学ぶワークショップ「Bコース」に参加した。水郷を形作っている葦（ヨシ）の原は、鳥や湖魚のすみかになり産卵場所を提供している。また、水や空気の浄化とも深くかわり琵琶湖の生態系を作ってきている。手漕ぎの舟で水郷をめぐり、葦（ヨシ）原に入り込み、その生態系を肌で感じる事ができた（写真15参照）。水郷の眺めや雰囲気を生かしたネイチャーゲーム「サウンドマップ」も体験した。水郷を包み込むように生息する葦の原を一望できる八幡山にも登り、琵琶湖や水郷の眺めも楽しんだ（写真16参照）。琵琶湖周辺の人々は、この葦（ヨシ）を暮らしの中のいろいろな場面で利用してきている。琵琶湖周辺の暮らしと葦（ヨシ）に関連するお話を聞いた後、葦（ヨシ）を使った工作、

よし笛作りも体験できた（写真17参照）。

2日目の夜は、「シェアリングネイチャーの可能性を探る」というテーマで、いくつかの分科会形式の「座・アラカルト」も行われた。「座」のテーマは、A「SDGs（エスディージーズ）」（持続可能な開発目標の17のゴールを学び、ネイチャーゲームを使って何ができるのかをみんなで考える）、B「キッズネイチャーゲーム」（キッズ用に開発したものやアレンジ版についてのネタを出し、課題の整理や今後の展望など）、C「ウェルネスガイドシェア会」、D「人と自然をつなぐ減災意識～自然災害と災害ボランティア」（指導中に災害は起こるかも。減災意識を身につけるために自然からどう学ぶかを考える）、E「木育（もくいく）」（木育の世界の今、ネイチャーゲームが貢献できることを共有しながら、これからの可能性を考える）、F「日本協会へひと言」、であった。

3日目の午前中には、100名を超える全参加者が参加する「全体会」の中で、SDGs ワークショップが開催され、SDGsに関連するアクティビティが実施された（写真18参照）。まず、アクティビティを始める前に、“SDGs とは何か”についてどの程度知っているか、「初めて聞いた人」はグー、「よく分からないけど聞いたことがある人」はチョキ、「説明できる人」はパー、で手を挙げてもらった。その結果は、ほとんどの人がチョキで、パーはちらほらであった。パーを挙げた人にSDGsを説明してもらった後、「SDGs 版〈この人を探せ〉」がスタートした。16項目の一部を記すと、1. 普段からエコバックを持っていますか、2. 水を汚さない工夫をしていますか、3. 食品ロスを減らす工夫をしていますか、4. 野菜や果物は旬のものや地元で採れたものを食べるよう意識していますか、…、11. スーパーやコンビニで割り箸を受け取らないようにしていますか、…、15. 打ち水や風鈴、グリーンカーテンなどで暑さをしのいだことがありますか、16. フェアトレードとは何か知っていますか、である。項目がある程度埋まったところで、8～10人のグループになり、それぞれの項目についての意見交換が行われた。メンバーを変えながら意見交換は3回行われた。様々な参加者とのやりとりの中で、日常の行いが、見方によっては白になったり黒

になったり、対場や考え方でいろいろ変わること気づかされた活動であった。2つ目の活動は、4～5人のグループに分かれてカードに書かれている項目を探す「SDGs版〈ディスカバーワーク〉」であった。「ダンゴムシ」「ハイブリッドカー」「LED照明」など、そのものを探す項目だけでなく、「地域の繋がりが見えるもの」「きれいな水を作り出すものや水をきれいにする工夫」などの項目はそれぞれの視点が異なることで、同じグループ内でも「なるほど、そういう見方もあるね」と新たな気づきにつながる場面もみられた。

全体プログラム終了後の午後、さらにエクスカーションに参加し、自然豊かな新緑の伊吹山に自生する山野草や薬草も観察した。自然体験型環境教育であるネイチャーゲームの実践面と理念について、全国から集まった参加者と交流し、体験しながら調査し研究を深めることができた。

(2) 研修講座等への参加・調査

①京都府シェアリングネイチャー協会「アクティビティーセミナー2018」

2018年3月には、京都御苑において京都府シェアリングネイチャー協会が主催する「アクティビティーセミナー2018」に参加した。当日は雨が降り、寒さも厳しい、あいにくの天気であったが、堺町休憩所付近で、参加者自身がネイチャーゲームの各アクティビティを指導する実践的な体験活動を行った。バディチェックシートへの記入や質疑応答、振り返りを通して、学び合いの多い充実した時間を持つことができた。

②ネイチャーゲームインストラクターや自然体験活動リーダーが集う会

2019年1月上旬には、京都府城陽市にある青少年野外活動総合センター友愛の丘を会場に、ネイチャーゲームインストラクターや自然体験活動リーダーが集う会に参加した。ネイチャーゲーム「この指とまれ」「名づけ親」「私の色」「ノーズ」などをネイチャーゲームインストラクターや自然体験活動の実践者と交流し、知見を深めるとともに、情報交換を行った。

③ネイチャーゲームインストラクター研修講座

2019年1月中旬には、大阪市中央区法円坂で開催された「ネイチャーゲームインストラクター研修講座」（大阪会場）に参加した。ネイチャーゲームの指導力（導入）についてともに考え、アクティビティ「動物交差点」「フィールドビンゴ」の基本的なやり方、アレンジの事例、指導上の留意点など改めて検証し、それぞれがやっている実践の仕方の情報交換も行った。

さらに、2019年2月中旬には、静岡県伊東市で開催された「ネイチャーゲームインストラクター研修講座」（伊豆高原会場）に2泊3日で参加した。世界ジオパークに認定されている伊豆の海岸において「自然と人間との共生」というテーマでの実習も行われた（写真19～写真21参照）。全国から集合した自然体験活動の経験豊富なインストラクターと自然体験や観察をともにし、互いに活動内容を振り返り、インストラクターとしての今や目標、困りごと、どう行動するかなど、当事者意識のもと情報の交換や交流を深めた。

④愛知県シェアリングネイチャー協会20周年記念事業「あい・会う・あいち～森で考え、森で遊ぶ～」

2019年11月30と12月1日の両日、愛知県岡崎市にある愛知県野外教育センターを会場に開催された、愛知県シェアリングネイチャー協会20周年記念事業「あい・会う・あいち～森で考え、森で遊ぶ～」に1泊2日で参加した。まず初日の午後は、参加者全員で愛知をテーマにしたネイチャーゲーム「落ち葉の窓」（写真22参照）で交流し、夜には20年間の活動を振り返りながら、未来につなぐ思いについてグループで共有し表現する活動も行った（写真23参照）。2日目は、早朝のフリープログラムにも参加した。午前中には、郡上里山保全組織「猪鹿庁（いのしかちょう）」の興膳健太氏により、生態系のバランスをとりながら里山保全に取り組む活動についての講演が行われた。「猪鹿庁」は様々な分野の専門家とネットワークを構築し、猟師を育成しながら、新しい里山作りを目指している。その後、森林組合による木を伐る体験、五平餅作り＆ジビエでお昼／スエーデントーチで温まろう（写真24参照）などの体験をした。

これからの自分や団体への期待を込めて「シェアリングネイチャー」の思いを楽しく共有する時間となった。

おわりに

「京女の森」や「京女 鳥部の森」などにおける自然との関わりを拠り所として、感動したり、驚いたりしながら、考えを深める中で、実際の自然の在り方を学ぶ体験を継続的に学生と実践している。また、自然体験活動や環境教育活動を実践している地域の会、全国的な研究大会や研修講座等に継続的に参加することにより、ネットワークが広がり、交流が深まってきている。実感を伴った自然体験により、「生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度」の育成へ向けて、さらに充実した教育課程・教育内容を提供していくことに繋がる。生命を尊び、自然を大切に、主体的に挑戦してみることや多様な他者と協働することの重要性などを、実感しながら理解を深めていく体験を今後も重視していきたい。

引用・参考文献

- ジョセフ・コーネル著、吉田正人訳（2016）『空と大地が私に触れた』日本シェアリングネイチャー協会
- ジョセフ・コーネル著、吉田正人・辻淑子訳（2013）『シェアリングネイチャーゲーム 自然のよろこびをわかちあおう』日本シェアリングネイチャー協会
- 公益社団法人日本シェアリングネイチャー協会（2014）『公認ネイチャーゲーム指導員録 自然案内人2014年度版』日本シェアリングネイチャー協会
- 公益社団法人日本シェアリングネイチャー協会（2015）『ネイチャーゲーム指導員ハンドブック 第7版—理論編—』日本シェアリングネイチャー協会
- 京都女子大学・京都女子大学短期大学部編（1995）『尾越のいのち—尾越山林環境調査報告書』京都女子学園
- 京都女子大学生命環境研究会（2011）『京女鳥部の森 散策マップ』京都女子大学生命環境研究会
- 宮野純次（2016）「自然体験型環境教育—身近な自然体験から行動へ—」能條歩編著『人と自然をつなぐ研究 ネイチャーゲーム大学講義録』公益社団法人日本シェアリングネイチャー協会、pp. 151-174

- 宮野純次（2017）「地域の自然を活用した自然体験と環境教育の取り組み(1)」『京都女子大学宗教・文化研究所研究紀要』第30号、pp. 63-72
- 宮野純次（2018）「地域の自然を活用した自然体験と環境教育の取り組み(2)」『京都女子大学宗教・文化研究所研究紀要』第31号、pp. 51-61
- 宮野純次（2019）「京都の自然を活かした自然体験と環境教育の推進(1)」『京都女子大学宗教・文化研究所研究紀要』第32号、pp. 37-49
- 宮野純次・高桑進（2007）「体験型環境教育プログラムの調査と研究(1)」『京都女子大学宗教・文化研究所研究紀要』第21号、pp. 63-72
- 宮野純次・高桑進（2008）「体験型環境教育プログラムの調査と研究(2)」『京都女子大学宗教・文化研究所研究紀要』第22号、pp. 1-15
- 社団法人日本ネイチャーゲーム協会編（2005）『ネイチャーゲーム指導員ハンドブック 第6版—理論編—』ネイチャーゲーム研究所
- 社団法人日本ネイチャーゲーム協会編（2004）『ネイチャーゲーム指導員ハンドブック 第6版—アクティビティ編—』ネイチャーゲーム研究所

<キーワード>

京都の自然、自然体験、体験型環境教育、ネイチャーゲーム



〔写真1〕「京女の森」での活動① ネイチャーゲーム「音いくつ」



〔写真2〕「京女の森」での活動② 二ノ谷尾根コース



〔写真3〕「京女の森」での活動③ ネイチャーゲーム「フィールドビンゴ」



〔写真4〕「京女の森」での活動④ 立ち枯れたアカマツの根元



〔写真5〕「京女 鳥部の森」での活動① ドングリの採集



〔写真6〕「京女 鳥部の森」での活動② ヒノキの木肌



〔写真7〕初夏のつどい(2018)ネイチャーゲーム「同じものをみつけよう」



〔写真8〕夏のつどい(2018)ネイチャーゲーム「葉っぱちゃんあつまれ!」



〔写真9〕初冬のつどい(2018)ネイチャーゲーム「ジャンケン落ち葉集め」



〔写真10〕夏のつどい(2019)ネイチャーゲーム「木のシルエット」



〔写真11〕秋のつどい(2019)ネイチャーゲーム「カメラゲーム」



〔写真12〕初冬のつどい(2019)ネイチャーゲーム「落ち葉の窓」



〔写真13〕 全国ネイチャーゲーム研究大会 in 福岡 2018 ワークショップE①
洞海湾



〔写真14〕 全国ネイチャーゲーム研究大会 in 福岡 2018 ワークショップE②
響灘ビオトープ



〔写真15〕 全国ネイチャーゲーム研究大会 in 滋賀 2019 ワークショップB
水郷めぐり 葦原



〔写真16〕 全国ネイチャーゲーム研究大会 in 滋賀 2019 ワークショップB
八幡山からの水郷の眺め



〔写真17〕 全国ネイチャーゲーム研究大会 in 滋賀 2019 ワークショップB
手づくりのよし笛



〔写真18〕 全国ネイチャーゲーム研究大会 in 滋賀 2019 SDGs ワークショップ



〔写真19〕インストラクター研修講座（伊豆会場）① 伊豆の海岸



〔写真20〕インストラクター研修講座（伊豆会場）② 海岸での実習



〔写真21〕インストラクター研修講座（伊豆会場）③ 夜間のネイチャーゲーム体験



〔写真22〕愛知県シェアリングネイチャー協会 20周年記念事業 ① ネイチャーゲーム「落ち葉の窓」



〔写真23〕愛知県シェアリングネイチャー協会20周年記念事業② 未来につなぐ思い



〔写真24〕愛知県シェアリングネイチャー協会 20周年記念事業 ③ スウェーデントーチで温まろう